

令和4年度 小金井市立小金井第三小学校 授業改善推進プラン

1 授業改善の方針

○学校教育目標の重点目標「考える子ども」の育成に向けて、各教科、各単元におけるICT機器の有効活用を積極的に進める。研究主題「教科の特性を生かした授業づくり～ICTの活用を通して～」に沿った授業実践を図るために、児童アンケートから明確になった本校の授業における課題改善を積極的に推進する。特に2学期以降は、協働的な学びの場面におけるICT機器活用が図れるように、研究推進部および各学年の研究推進リーダーを中心に、授業改善を進める。

2 児童の現状分析

(1) 全国学力・学習状況調査・まなびポケット学力調査

国語	○全国学力・学習状況調査では、本校は全国、東京都の平均正答率をどの内容でも上回っている。しかし「話すこと・聞くこと」の平均が相対的に低いことから、コロナ禍における対話の時間の抑制の影響も考えられる。今後は、感染症対策を講じながらも積極的に対話の時間を取り入れ、学年の目標に応じた指導を進めることで改善を図っていく。
算数	○全国学力・学習状況調査では、本校は全国、東京都の平均正答率をどの内容でも上回っている。しかし「図形」の平均が相対的に低い。デジタル教科書等のさらなる活用により理解を深められるように工夫する。まなびポケット「デキタス」「navima」を活用し、個に合った問題演習を進められるようICT機器を効果的に取り入れた指導を実践していく。

(2) 児童・教職員アンケート

○児童は、ねばり強く学習に取り組む姿勢に課題を感じている。主体的に学習に取り組む態度を育成するための教師の工夫や、児童への意識付けが必要である。また、聞く力はあるが、相手に分かりやすく話す力に課題を感じている児童が多く、ICT機器を活用した伝え合いだけでなく、対面で伝え合う力を高めるための意図的な授業づくりを行っていく必要がある。

3 各教科等における授業改善の視点

国語	低学年	○促音、拗音、格助詞を正しく表記できない児童が多い。言葉に関する演習プリントや、AIドリルを週に1時間は活用したり、ペア対話の練習を繰り返し練習したりすることで、文中で正しく使えるようにしていく。
	中学年	○漢字の定着が不十分である。自作の文を書く機会を設け、定着させる。読書量にも個人差があるので、読み聞かせやストーリーテリングなどの働きかけで関心を高める。また対話の時間を意図的に取り入れていく。
	高学年	○振り返りや再テストを繰り返すことで漢字の定着を図る。書き順をモニターに映しながら確認するなど指導を工夫する。ICT機器を活用して友達の意見を共有した上で対面で対話を深めるなど、ハイブリッドな指導も実践する。
社会	中学年	○グラフや資料から読み取ったことを、自分の言葉で表現することが苦手な児童が多い。ノートや「schoolTakt」などを活用して、読み取ったこと、考えたことを表現する活動を取り入れる。また、都道府県の名前に親しみ、4年生の終わりまでに正確な位置と名称を書けるようにする。
	高学年	○社会科の用語や地名、キーワードを用いて特色や考えを表現することが苦手な児童が多い。問題解決学習を進め、「schoolTakt」を活用し、学習問題をまとめる活動を多く取り入れることで、表現力を高める。
算数	低学年	○筆算の繰り上がり・繰り下がりが定着していないので、AIドリルを週に1時間は活用し、自分の課題に合った問題に触れる機会を増やす。 ○身近な素材に触れ、図形の特徴をとらえる機会を意図的に増やす。
	中学年	○既習事項を活用し、新たな問題に挑戦しようとする態度を養う。そのための基礎演習(プリントやAIドリルなど)を授業の開始5分や朝学習、家庭学習の時間を活用して着実に身に付けさせる。
	高学年	○数学的な思考力を高めるため意図的にICT(まなびポケット)のチャット機能を活用し、自分の考え方をもって友達と共有する場面を多く取り入れる。 ○既習の基本図形をもとに新たな図形の面積、体積の求め方について理解を深める機会を設ける。

理 科	中学年	○ICT機器を利用することで、友達の見解の似ているところや違うところを共有しやすくし、自分の考えをもちやすくする。
	高学年	○何のための実験かを明確にして実験計画を立てさせる。実験結果を予想してから取り組ませることで、考察を導きやすくする。
生 活	低学年	○日常生活の中で必要な技術が十分ではないため、作業に時間がかかる児童がいる。生活科だけではなく、他教科との関連も図り、楽しみながら必要な技術が身に付くようにする。意欲と自信をもたせることにより自立の基礎を養う。
音 楽	低学年	○楽曲の気分を感じ取って歌い方を工夫する過程で、丁寧な歌い方やきれいな発声、発音に気付かせる。はっきりした発音で歌詞を読むことを意図的に指導していく。
	中学年	○1学期はICT機器を使用して、演奏法の確認を児童同士で行う活動を取り入れた。2学期以降は、自主的に使用できるように指導する。
	高学年	○歌唱、鑑賞を中心に活動したが、ICT機器は、教員側で資料提示時のみの使用に留まった。2学期以降は、ICT機器を使用した鑑賞曲の感想の共有などを積極的に進める。
図画工作	低学年	○塗り直しなどの手直しをした後の作品のよさを感じさせ、褒めるとともに、今後も丁寧に取り組むように促す。 ○ICT機器を活用し、作品の工夫した点や友達の作品のよい点を交流させる。
	中学年	○文字や画像からの知識は不足ないが、生活体験が乏しく、手を使って考え、ものと粘り強く関わる力が弱い。多様な造形体験を通し、ものや人と関わり、色、形、材料のよさを発見し、自ら学びを発展させる力を養う。
	高学年	○主体的に学びを進める力、造形力の個人差が大きい。造形体験を多様に広げ、ものや人、色、形、材料とのかかわり方、よさの発見の仕方を個に応じて促し、学びを自ら発展させる力を伸ばす。
家 庭	高学年	○制作学習では、実物標本や段階標本などを手にとって考えることができるようにしたり、制作過程を動画で提示して見通しをもって取り組めたりできるようにする。
体 育	低学年	○児童が興味をもって取り組めるような運動遊びを組み合わせを行い、運動への意欲を高める。様々な基本の運動を多く体験させることにより、幅広い運動経験を積み重ねられるようにする。
	中学年	○日常的に運動している児童としていない児童の体力の差が大きい。学習の中で運動量を十分に確保したり、日常的に外遊びを促したりして、運動する機会を設ける。
	高学年	○チームや個人の課題を見付け、解決の仕方を工夫する力が不十分である。練習方法を選んだり、考えたりして、課題にあった解決の仕方を見つけるとともに、友達からの助言をもとに個人の技能を高められるようにする。
外国語	中学年	○デジタル教科書を使用したり、ALTとの会話を聞かせたりすることで、児童が楽しんで活動を行えるようにする。
	高学年	○デジタル教科書を使用したり、ALTとの会話を聞かせたりすることで、英単語や英語表現を理解し易いようにする。 ○発表時にICT機器の録画機能を使い、自身を省みて改善できるようにする。
道 徳	低学年	○教材を想像しやすくするために、スライドなどを活用し場面を想像して考えることができるように工夫する。
	中学年	○音声教材や挿絵をテレビに映して効果的に活用したり、スライドの色づかいを変えて立場を明確にして意見を共有したりする。
	高学年	○ICT機器を活用して、考える時間や書く時間を確保し、自分の考えをしっかりとまとめる時間を確保する。
総 合	中学年	○大きな課題から、身近な課題として自分事としてとらえられるようにし、「調べ→まとめ→自分たちにできることを実践→発展」というように、学んで終わりではなく、実生活に生かせるように授業展開を工夫していく。
	高学年	○児童が自分事として考え、調べ学習を進められるような課題を設定する。調べ学習の後は発表の場を設け、お互いの発表を見ることを通して、様々な発表方法を知ったり、よりよい発表の仕方、態度について理解できるようにしたりする。